



平成21年 3月 6日(金) 岐阜県政記者クラブ配付資料		
団体名	担当者	連絡先
(社)ぎふクリーン農業研究センター	杉原亮太郎	058-276-5072

岐阜県産農産物の安全性と安心感を 信頼性の高い分析技術で支えます！

～ かび毒アフラトキシン、牛乳・鶏卵のメラミンの分析も

残留農薬分析
だけでなく...

ぎふクリーン農業研究センターにおまかせください！ ～

(社)ぎふクリーン農業研究センターは、農家が自主的に残留農薬の分析(自主検査)を行うことで、産地自らが安全性確保や安心感向上に取り組む、その受け皿として、県下JAグループ・岐阜大学・岐阜県の産・学・官により設立した社団法人です。

平成16年8月の設立以来、国や県の食に関する諸制度の改正に的確に対応し、人員・設備の充実、分析技術の向上に努めてきたところです。

昨年国内では、非常に高い発ガン性を持つカビ毒“アフラトキシン”で汚染された事故米が不正に流通する事件が発生しました。また中国において牛乳へのメラミン混入により健康被害が発生し、日本のみならず中国から乳製品を輸入する世界各国が震撼する事件が発生するなど、食品の安全性を脅かす事案が続発し大きな社会問題となっています。

当センターでは、今回問題となったカビ毒アフラトキシンや、牛乳・鶏卵中のメラミンについて、自主検査の依頼をお受けする体制を整えました。輸入食品の取り扱いのある業者の皆さま等のご相談をお待ちしております。

今後とも残留農薬の分析と併せて、県内の食の安全性確保の一端を担って参りたいと考えています。

マスコミ各社の皆さまが、今回の問題だけでなく、県の進める「ぎふクリーン農業」や県産農産物の安全性確保の取り組みについて取材をされるにあたりまして、残留農薬分析に関するご質問や当センターでの取材に随時お応えします。お気軽にお問い合わせいただきますようご案内いたします。

<当センターの主力分析機器>



ガスクロマトグラフ質量分析計
(通称：GC-MS/MS、H19年度導入)

※主に、揮発性が高く熱に安定な農薬などを分析します。



高速液体クロマトグラフ質量分析計
(通称：LC-MS/MS、H18年度導入)

※主に、揮発性が低く熱に不安定な農薬などを分析します。アフラトキシン、メラミンはこちらの装置で測定します。